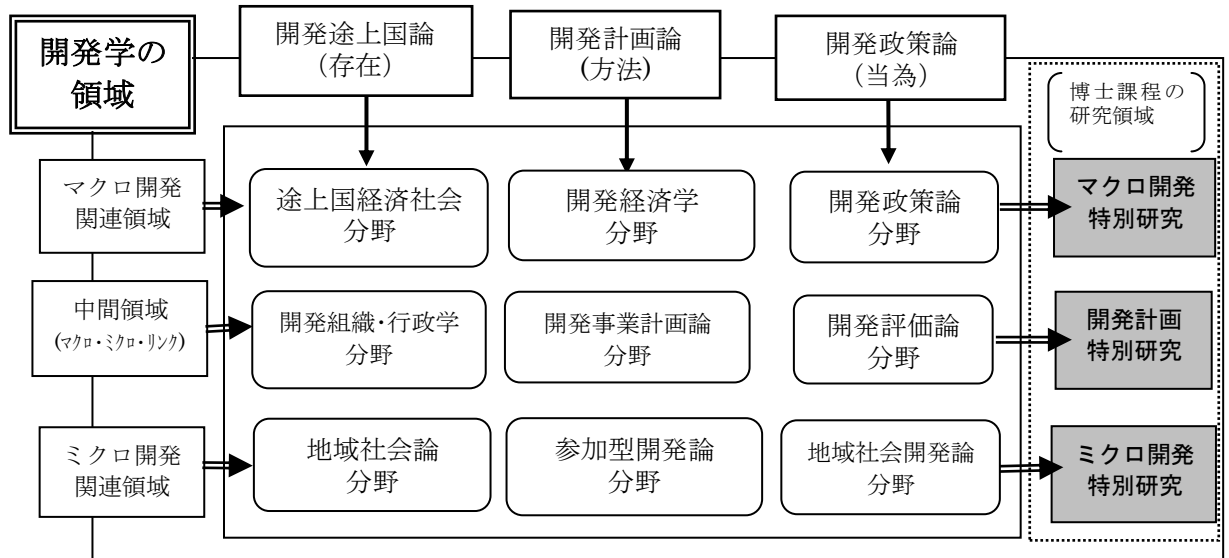


教育課程の特色

1)教育課程編成の考え方

本国際社会開発専攻博士課程においては、開発における諸分野を、仕掛け（制度論）と行為（方法論）を中心に下記の9つの分野に特定して「開発学」として体系化し教育課程を編成しています。この体系から導き出される「開発計画特別研究」、「マクロ開発特別研究」、「ミクロ開発特別研究」の3つの研究領域を設置して指導を行います。



< 開発計画特別研究 >

この領域では、都市・農村開発、初等教育、保健衛生といった各セクターにかかわる開発政策や制度、地方レベルの政策、それらの発展に資するための開発協力プロジェクトの形成・評価など、マクロ開発領域とミクロ開発領域の中間に位置する領域の研究指導を行います。特に、問題把握、現状分析、原因追求、方針設定、解決策立案、手順化など、意志決定に関わる一連の方法論と手法開発に資することに重点が置かれます。

調査研究にあたっては、理論研究を含む先行研究を踏まえつつ、フィールド調査による一次資料の分析を重視し、変動する途上国社会の実態に即応した実学的な研究となるよう指導します。また、他国や他地域との比較の視点、歴史的な変化を考慮に入れた視点を積極的に取り入れ、研究に幅と奥行きをもたせるとともに、本研究科から内外の大学、研究所、実務機関に向けた情報発信が行えるようにします。

< マクロ開発特別研究 >

この領域では、まず、農業中心であった伝統的社会からの経済社会発展がいかにして可能になるのか、国際環境と地域の歴史的特性を踏まえながら、発展のメカニズム、市場・企業、政府および共同体や市民社会の役割、発生する問題とその解決策などの課題を検討します。次に貧困・格差・環境など地球規模で広がる諸問題を分析するための理論と政策、取り組みの歴史と現状など、社会および人間開発を含めたマクロ開発学を研究教育します。具体的には、人口爆発がもたらす天然資源の枯渇が人びとの生活にどのような困難をもたらす社会発展の制約となるか、工業化に必要な労働生産性向上にはたすべき資本蓄積と技術進歩をどのようにして獲得するか、途上国が近代化過程で遭遇する所得分配の不平等化と環境破壊に対していかなる政策が有効か、経済資源の利用に際し競合する人びとを調整するための制度的枠組みをどうつくるか、などが重要課題となります。

また、発展途上国における経済社会の開発は、資本主義世界経済への包摂のありようや世界経済の構造的激変、国際関係によっても規定されます。アジア、アフリカ、ラテンアメリカの諸地域が、多国籍企業や大手金融機関が推進し、IMF、世界銀行、世界貿易機関などの国際機関に支援されるグローバリゼーションの進展の中で、どのような問題に直面しており、どのように解決を図っていくか、を研究指導します。

<マイクロ開発特別研究>

この領域では、開発現場で得られた問題意識を論理的に定式化し、正しい方法論に基づいて、現実の開発活動の改善に貢献しうる有用性の高い結論を得ることに重点を置きます。理論的成果を踏まえつつ、事例研究に基づいて既存理論を検証したり、適用限界を明らかにしたり、新たな仮説を打ち出して検証することを指導します。参加型調査・評価法など新しい研究方法論も積極的に取り込んで、21世紀 COE 構想が掲げる政策科学形成を目指します。

研究対象として、発展途上国における都市スラムや村落などの地域社会を単位とした社会的開発を取り扱うこととなります。例えば、地域社会が自立的に発展していくための組織形成メカニズムや地域資源に基づく持続的開発を進める共同行動に関する実体論的研究、外部者が地域社会にアプローチし、理解し、開発に関与する方法についてのプロセス論的研究などがあげられます。いずれにせよ原理的思考を重視し、いわゆる参加型開発についても、その基盤を社会的制度的に検討することとなります。その上で、都市・農村における貧困地域を対象とする貧困削減、居住環境改善、マイクロファイナンス、女性のエンパワーメントなど、現代的な政策やプログラムを、実践的関心から分析します。その際に、開発協力 NGO や農村の協同組合など、開発における中間組織の役割に注目します。

2)課程教育充実のための取り組み

本博士課程の前身となる国際社会開発研究科博士後期課程(通信教育)は、2005 年度文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択(対象期間 2 年間)され、2006 年度末までその課程教育の充実に取り組んできました。

この事業は、さまざまな海外研究教育拠点の連携強化を通じて、国際社会開発領域における国際的な研究教育ネットワークを構築しながら課程教育の充実を図る中で、大学院学生同士がグローバルに切磋琢磨しうる教育研究環境を拡充し、博士課程レベルでの若手研究者の養成を目指すものです。

当該事業終了後も、事業期間中に整備されたインフラやネットワークを活用して、引き続き、学生の理論的かつ実践的な研究活動について、以下に例示される支援を継続していきます。

(1)国際的な研究フィールドの拡充

- ・世界 3 カ国の海外拠点校に加え、5 カ国 7 名のリソースパーソンから開発フィールドの紹介やフィールドワークの支援。
- ・海外拠点教授による英語でのテキスト科目「Social Development」の実施や研究調査アドバイス。
- ・在外外国人博士課程学生を含めグローバルに切磋琢磨する研究教育環境の醸成。

(2)研究教育資源の蓄積

- ・海外拠点校や海外リソースパーソンから多様な開発教材・研究資料を集積。
- ・集積された開発教材・研究資料について、研修指導やテキスト科目「Social Development Case Studies」等での活用。

(3)IT を活用した教育研究支援

- ・集積された開発教材・研究資料について、動画像データ等のメディアを活用。
- ・本学図書館を通じた電子ジャーナル等へのリモートアクセスの活用。

国際社会開発専攻における研究者養成の履修プロセス概念図※

入学者層の社会開発領域における現場経験

← 長い 短い →

例:援助機関専門家
NPO/NGO 専門職員

例:青年海外協力隊員
インターンシップを経た新卒学生

【実施フィールド】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□特定地域開発研究

学生各自がフィールドを設定して自主的に行う開発現場での調査・研究活動に対して、研究課題との関連性や方法の適合性をチェックして評価し単位を認定。
なお、学生の実証研究の展開を促進するため、本学においても多様なフィールドを用意する。

巡回による対面指導

【インターネットを活用した通信教育】

履修指導

- 開発基礎論の教育・指導
- 研究方法に関する基礎教育
- フィールド調査法に関する基礎教育
- 基幹科目群の教育・指導
- 特別教育科目群の教育・指導

研究指導 (および論文指導)

研究指導 (および論文指導)

【実施フィールド】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□地域開発研究 (スクーリング)

本学の設定した複数の開発現場での講義・フィールドワークにおいて教育・指導

巡回による対面指導

国内外の企業, 国際機関, 海外の開発関係研究機関等

□インターンシップ

現場実務を学びながら研究上の問題意識をより明確にするための支援

研究計画書の確定に向け指導

【修士課程】

修士論文・学位審査

修士学位授与

専門職業人として
キャリアアップ

【博士課程】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□特定地域開発研究

学生各自がフィールドを設定して自主的に行う開発現場での調査・研究活動に対して、研究課題との関連性や方法の適合性をチェックして評価し単位を認定。
なお、学生の実証研究の展開を促進するため、本学においても多様なフィールドを用意する。

巡回による対面指導

研究指導・論文指導

研究計画策定指導

研究指導計画策定(教員)

研究計画提出

論文計画・調査計画指導

論文執筆資格審査

論文執筆指導

博士学位授与第1次審査 博士学位授与審査

博士学位授与

博士課程入学

例:国際公務員,
民間シンクタンク
研究者,
大学若手教員

高度専門職業人
(管理者ポジションへの
キャリアアップ)

社会開発領域の研究者としてのキャリア

(大学・大学院の教員、国際機関・援助機関・企業の研究職への採用)

※本専攻は、同専攻修士課程から博士課程へと一貫する教育・研究指導による研究者養成に組織的に取り組んでいます。(この取り組みに対して、2005年度文科省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択されました。)